



# 四百種におよぶ高山植物の宝庫

北アルプス (朝日・白馬連山) 生物群集保護林

シリーズ

中部の保護林(第6回)

## 設定目的

日本海側気候の特長を示すブナ帯から高山帯にかけての代表的な森林帯が分布しています。

朝日岳から日本海までの距離は短く、冬の季節風を直接受けるため、代表的な日本海側の植生となっています。高山植物種数は四百種にも及び、この地域は高山植物の宝庫となっています。

この地域の貴重な森林生態系の保護・管理を図るために、保護林として設定しています。

## 地況・林況

朝日岳から白馬岳しろうただけ 一帯は、山岳の地形が変化に富み、地質は古生代から中生代の様々な岩石が分布しており、石灰岩、蛇紋岩等がみられます。

植生は、ブナクラス域からトウヒ・コケモモクラス域までが分布しています。下部ではブナ、マルバマンサク等の群落が、中腹ではダケカンバ等が、山頂部は高山植物が分布し、種数及び固有種が多い地域となっています。

保護林の中央には白馬大雪渓はくばだいせつがきがあり、ハイマツ、ハクサンコザクラ、ミヤマキンポウゲ等の高山植物が生育しています。

## 所在地

富山県朝日町・黒部市、長野県白馬村



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

※詳細は、QRコードを読み込んでください。

